

# 蒲田ものづくりプロジェクト ～高次脳機能障がい者との協働による～

蒲田寺子屋

〒146-0095 東京都大田区多摩川 1-21-21

## 助成事業の概要

高次脳機能障がい者が主体的に働き賃金を得る場が少ないことから、ものづくり作業を通じて当事者の就労に向けてのやる気を引き出し、社会的な交流の場や生きがいを創出することが本事業の目的であった。方法であるが、蒲田寺子屋を製作拠点とし、金曜日の13時から16時の間、洋裁専門家の指導のもと、「印刷物の製作」「手工芸品の製作」を行った。当事者は、家族会のつどいや相談支援機関、専門家ネットワークにてはがき大のチラシを製作して募集した。参加者には、数週間さまざまな作業を行っていただくことで可能な作業能力を判定し、最終的には販売できる製品の製作や梱包袋など実際の販売を念頭に置いた物品の製作を行っていただいた。製作した物品はフリーマーケットやイベント会場で販売した。当事者には1時間あたり300円の賃金と、交通費を支払った。作業時間中は、当事者の疲労などに留意し、休憩を適宜入れるように努めた。

## 事業の成果

助成期間内における本事業の延べ参加者は6名であった。また家族から当事者を参加させたいという希望も2件あったがまだ来られるには至っていない。6名のうち2名は1度みの参加であり、継続的な参加は4名であった。長期的に参加された1名においては、参加前後のMMSE尺度およびBADSS「鍵探し」尺度において「日付などの見当識」「暗算」「記銘力」「遂行機能」が

改善していた。社会参加を評価するCIQ尺度でも「家事」「計画」で向上していた。これらの結果から、ものづくり事業への参加が機能改善につながった可能性が考えられた。他の3名については年度途中からの参加であり、本事業のもたらす成果は検討中である。また別の成果として、販路開拓の過程において区内外を問わず多くの組織や社会資源とつながったことが挙げられる。助成期間を終えた現在、「蒲田寺子屋・ものづくり事業」は多くの人の知るところとなり、地域のイベントに誘われることも増え、本事業は蒲田寺子屋が地域のネットワークに加わるよいきっかけとなった。

本事業の反省点・課題として、当事者を呼び込むことが難しかった点が挙げられる。特に、1度は参加したが継続できなかったケースもあったことから、「賃金をもらって売り物を作る」という本事業の方向性は地域参加の第一歩を踏み出す当事者にとってハードルが高く、ふさわしいものではなかったかもしれない。また、「ミシンを主体としたものづくり」は必ずしも当事者にとって魅力のある作業でなかったようで、家族から参加希望があっても当事者が動き出せないケースや、本事業に定着した4名のうち2名は「ミシンが苦手」でありミシン作業が出来ないといった問題が起こった。このような反省点を踏まえ、助成期間終了後は当事者主体を心掛け、「売り物を作る」という方向性ではなく、当事者が作りたいものを製作するという方向に転換することで、より多くの当事者に参加していただける場づくりに努めたいと考えている。

## ■ 成果の広報・公表

本事業において製作された製品は、現在、蓮沼の「気まぐれ八百屋だんだん」や西蒲田の「コミュニティカフェ街の駅」および福祉系のイベントなどで販売され、値札に本事業の説明を加えることで、一般の購入者に高次脳機能障がいを知る機会を提供している。今後は福祉系のショップのみならず一般の店舗にも商品を配置する予定である。本事業の経過や製品については随時蒲田寺子屋のブログやツイッターなどで紹介しており、ネットを通じてものづくりの注文や販路の提案が来ることも多かった。本事業の1年間の成果と反省点は大田区家族会や大田区の支援者ネットワークなどで報告を行うほか、2015年12月に東京・渋谷で行われる「第39回日本高次脳機能障害学会学術総会」でも発表を行う予定である。

## ■ 今後の展開

本助成での経験から、蒲田寺子屋のように小さな地域資源が当事者の社会参加の手助けを目指す事業を行う場合には、参加するためのハードルを下げる必要性があることを痛感した。今後は、参加しやすい雰囲気づくりに努め、より当事者主体となるような活動の場を提供してゆく予定である。この方向転換のもと、さっそく若い当事者が自分の希望でクッションを製作するなど、よい流れとなっている。また今後さらにボランティア、見学者なども呼び込みたいと考えている。

販売品の製作・販売は継続する。今後も「蒲田寺子屋ものづくり事業」を通じて、さまざまな組織や場とつながってゆく予定である。現在、地域のフリーマーケットや、遠方の障がい者イベントなどから販売の誘いを受けており、

そのような場で販売することを通じて、高次脳機能障がいの啓発につながればと考えている。このようなつながり・広がり本事業の遂行によって新たに得られたものであり、この助成に対し改めて感謝の意を表したい。